

令和 8 年度上伊那圏地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回こども・若者部会 第1回支援ネットワーク連絡会 合同開催	参加者数	74 人	会場	伊那市防災 コミュニティセンター 多目的ホール
	日時	令和8年7月7日(火) 13:30~15:30				
主 題	(1) 今年度の活動計画 (2) 南信子ども・若者サポートネットについて (3) 地域みらい留学講演 (4) その他					
内 容	(1) 今年度の活動計画 昨年度に引き続き、地域連携や支援体制の強化を図るため、各連絡会で研修会や地域課題の吸い上げを行い、課題の共有や解決を行う。 (2) 南信子ども・若者サポートネットについて 事務局：NPO 法人フリーキッズ・ヴィレッジ 南信子ども・若者サポートネットは、ニート・引きこもり・不登校・発達障害などで社会生活を営む上で困難を有する子ども・若者（主に15歳~39歳位）を支援する長野県の事業である。南信地域では90の関係機関でネットワークを構成。主な業務内容として、相談業務、個別ケース検討会議、高校中退者のフォロー、居場所の提供を行っている。 〈居場所の提供〉 ① 若者の居場所「おるら」 毎週木曜日開催。15歳以上対象、参加無料。カードゲームなどで安心感を得る「第3の居場所」となっている。 ② 高遠みんなの楽校 小中学生が中心だが、高校生がスタッフとして関わるなど、世代を超えた繋がりがある。 〈相談の現状〉 就労や家庭問題、「居場所」を求める相談が非常に多い。15歳までは学校等が把握しているが、高校進学後に社会から切り離され、誰にも知られない状態になるリスクを危惧しており、早期の繋がりや連携を重視している。 (3) 【講演】地域みらい留学とは 講師：一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム ① 地域みらい留学の定義と目指す世界 ・都道府県や地域の枠を超え、偏差値ではなく「地方の特色ある高校」に入学し、地域で学び、暮らす3年間の選択肢である。 ・教育の特色：地域の自然、産業、文化を生かした独自カリキュラムや、地域住民との関わり、多様な背景を持つ生徒との共同生活（寮生活）が特徴である。 ・自分で人生を選択できるような「意思決定できる若者」の育成を目指す。 ・現在、全国37道府県200校近くが参画し、約1,500名が留学している。島根県立隠岐島前高校が先駆けてあり、高校の魅力が人口減少の歯止めや地域の活力向上に直結した成功例として挙げられた。 ② 「リスタート層」への可能性 ・不登校経験者や、今の環境を変えたいと考えている「リスタート層（再スタートを切りたい層）」にとって、地域みらい留学は大きな転機となり得る。 ③ 具体的なステップと受験制度 時期：夏（合同説明会やフェス）、秋（オープンスクールでの現地体験）、冬（受験）の流れとなる。 試験：一般入試のほか、面接や作文を中心とした「推薦入試」がメインとなるケースが多い。					

	④ 質疑応答 ○費用・経済的サポートについて おとし留学：宿泊費や交通費の一部補助、現地宿泊費の無料化など、地域へ滞在し、体験するための支援を行っている地域もある。 ○受験資格・出席日数・学力について 出席日数：中学校の出席日数による明確な制限は設けられていない。不登校経験があることのみを理由に受験資格を失うものではなく、内申書（調査書）の内容を含めた総合的な判断となる。 学習の遅れへの対応：入学後は、自ら学ぶ意欲や主体的に取り組む姿勢が重視される。自治体が運営する学習を支援する体制を整えている学校も多く、学力面に不安がある場合は、事前相談を行えるとよい。 ○入試制度と進学までの流れ 選考の流れ：多くの地域では、高校入試とは別に寮の選考（面接等）が先に行われる。これは、共同生活の適性や生活面の確認を目的としている。 入試形態：面接や作文を中心とした推薦入試が多いが、制度は都道府県や学校によって異なるため、志望校や各教育委員会への確認が必要である。 ○不登校・再スタートを希望する生徒への対応 受け入れ実績：不登校経験のある生徒を積極的に受け入れたいと考える学校は多く、高知県、静岡県、福島県、長崎県、北海道などの参画校で受け入れ実績がある。 ○進路変更（退学・転入） 入学後に人間関係や家庭事情などにより、帰郷等の進路変更をするケースもある。一方で、欠員が出た寮への転入や再入学を個別に受け入れている実績もある。 ○進路指導と周知の現状 中学校の理解：現状では制度への理解が十分でない学校や教員もあり、「県外受験は保護者の責任で進めるもの」とされる場合もある。 相談窓口：学校の情報が十分でない場合でも、地域みらい留学の事務局が相談対応している。また、近年では卒業生や保護者による情報交換の場も広がっている。 ○卒業後の進路と地域での暮らし 進学・就職：卒業後の進路は多様であり、地元自治体や郵便局への就職、地域おこし協力隊としての活動、大学進学、起業など、さまざまな進路につながっている。 資格取得：農業や海洋水産系などの高校では、専門分野の資格取得を通じて、将来の仕事につながる生徒もいる。 ○長野県内の状況 参画校の状況：具体的な参画校数は明確ではないが、白馬高校や木曽青峰高校などが、林業や観光分野との連携、地域全体で生徒を支える取り組みが特色となっている。 また、県外への進学だけでなく、県内の区域外にある公立高校へ通う選択肢も制度上可能である。 (4) その他・連絡事項 ・ジョブカフェ信州：松本市にある若年者就業サポートセンター。キャリアコンサルティングやセミナーを無料で提供しており、就職に関する相談が可能である。 ・サマースクール（かみとくれん）：7月25日開催。BCP（事業継続計画）作成に関する防災講座が行われる。
まとめ	地域みらい留学において、「自分で選ぶ」ことで新たな可能性を広げられる多様な学びの場を提供することの重要性について理解を深める機会となった。
次回	9月3日（木）10:00～12:00 こどもサービス連絡会と合同開催 場所：伊那市防災コミュニティセンター多目的ホール